

第2回 総会(建設ICT導入普及研究会)アンケート

平成24年3月23日

	ご意見など	回答
1	今後の方向性がわかりにくい。CALS/ECとは、どのように関わっていくか？	建設ICT導入普及研究会では、一連の建設プロセス(調査・設計・施工・維持管理など)において、効率化・高度化による生産性の向上等を図ることを目的にICT技術の普及導入に取り組んでおります。平成24年度以降は施工以外の分野においても更なる普及導入に取り組むために、「建設マネジメント研究WG」において検討してまいります。 また、CALS/ECアクション・プログラム2008の6つの目標の第4に「情報化施工の普及推進による工事の品質向上」が定められております。
2	・建設ICTの上流側(調査・設計)の取組状況・方向性について知りたい。 ・出来形及び維持管理への、具体的な活用に向けた検討をお願いしたい。	建設ICT全体の取組については、「建設マネジメント研究WG」により検討しており、平成24年度はその検討状況について総会等での報告を予定しております。 また、設計については「設計施工見直しWG」において検討しており、これまでの総会において検討状況を報告しております。
3	現在は、大手ゼネコンのAクラスの工事で、活用事例(モデル現場等)が少ないので、さらに幅広い分野で建設ICTを活用していただきたい。	これまでのモデル工事を通し「土工」と「舗装工」において建設ICT技術を活用することが従来施工と比較し、同等以上の効果が検証されたことから、これら工種において幅広く建設ICT技術が活用されるよう普及促進など勤めてまいります。
4	・建設ICTを土工だけでなく、構造物へ早期に対応してもらいたい。 ・電気通信設備工事においても、実用化を期待する。 ・赤外カメラを利用したコンクリート内部の検査についても特に維持管理の面で有効と思われるので検討願いたい。	検証中または未検証のICT技術については、建設マネジメント研究WG(個別PT)において導入効果や課題の検証などに取り組んでまいります。
5	プロジェクト会員・PT参加業者へのインセンティブも検討していただきたい。	当研究会の設立主旨から、会員皆様の情報取得量や機会の増加がインセンティブと考えております。これまで以上に情報発信や新規取組を検討しますので、今後も会員皆様の積極的な参加をいただきながら取り組みを拡大してまいります。
6	一般化と標準化の意味合いの違いは？	一般化とは国土交通本省が示す全国の「情報化施工推進」に係る平成25年度からの目標です。 一方、中部標準化とは、従来施工と比較し建設ICT技術を活用することで同等以上の効果が示された「土工」と「舗装工」において平成24年度より「インセンティブの付加」や「各種基準(管理要領など)」を整備することで優位な技術の普及促進を図るための取組です。
7	「中部標準化」のその他(最新技術)の中にレーザスキャナが入っていますが、これは出来形での活用を考えているのでしょうか？ 来年度、活用を考えても良いのでしょうか？	レーザスキャナなどは、「活用事例はあるが引き続き検証を行う技術」と位置づけております。
8	・標準化に対応するために、さらなる地整側の指導を期待したい。	総合評価による加点制度を活用したインセンティブの付与や、監督検査要領(案)などの導入環境の整備により、情報化施工技術が活用されるよう促進してまいります。
9	TSIによる出来形管理技術以外での施工者希望による技術導入はまだ少なく、支援が無いと普及しない状況だと思われまので、今後とも普及支援をお願いしたい。	今後も普及促進に向けて、適切に進めてまいります。
10	情報化施工用設計データが貸与された場合、平面、横断と発注図時点での間違いが発見された際の対応は、迅速に行われるのか？	これまでと同様に、契約後、問題が明らかとなった時点で速やかに工事監理連絡会(三者会議)を開催するなどし、対処にあたります。
11	3次元設計の導入に向けて方向性を検討すべく、多くの実証実験等を行っていただきたい。	平成24年度の早い時期に建設マネジメント研究WGにプロジェクトチームを設置し、議論してまいります。
12	・設計データを、早期に発注者からの貸与としてもらい、普及を図ってほしい。	平成24年度からはTS出来形管理用データを提供する工事を増やすなど、今後さらに推進してまいります。
13	・気候、天候によりICT使用に関して左右されるのか知りたい。また、左右されるとしたら、どの状況においてか。	天候による影響のほか情報化施工機器の特徴については、「第9回情報化施工推進会議 資料2」のp.16に記載がありますのでご参照ください。(本省HP: http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/constplan/sosei_constplan_fr_000015.html)
14	・効果のあがらなかった技術について、その原因を技術的に詳しく説明して欲しい。 ・施工者アンケートでの効率化、非効率等についての理由を知りたい。	施工効率が向上しなかった現場については、さらに原因分析をすすめてまいります。

	ご意見など	回答
15	モデル工事であれば、建設ICT導入に係わる費用が計上して頂けるが、一般化になると原価的に非常に厳しくなるのではないかと不安な面がある。 各アンケート調査において「変わらない」という意見が多いことをよく受けとめて、一般化すべきものを見極めをお願いしたい。	今後も必要に応じて、施工状況や経費等の調査を行い、適切に進めてまいります。
16	・現場で活用できる講習がしたい。 ・小規模の講習会に使える、理解しやすいテキストがほしい。	総合サイト(HP)に活用できるテキスト類を用意しておりますので、ご活用ください。 また現在、あらたな入門書を作成しており、今後中部技術事務所のHPIにおいて掲載する予定です。
17	・ICT導入にあたり、準備、出来形整理等、事務作業を極力減らし、現場(施工現地)に常駐できる様なプロセスにしていきたい。	情報化施工が分かり易く活用できるように、要領や手引き等を整備するなどみなさまからのご意見も参考にしながら進めてまいります。
18	・今後は「技術者育成PT」をもっと充実させていきたい。	行政担当者を対象に県毎にTS出来形の実践と各技術紹介を主とした講習会を検討しています。施工業者の方については、継続するモデル工事において、現場見学会を実施予定です。
19	・講習会を随時開催していただきたい。 ・講習会の実施の回数を増やして欲しい。	技術者育成は大切なテーマと認識しており、講習会は機会をとらえ開催してまいります。
20	レンタル業者や測量機器メーカーに対して、メディアの差込み不良など、単純な原因による相談が持ち込まれる実態がある。現場で管理・測量・機械施工の全体をマネジメント出来る人材が必要と考える。個別技術の体験のレベルを超えた教育をお願いしたい。	ご意見を参考に検討してまいります。
21	・施工業者がオペレータに指導するのに、わかりやすいシステムを構築して欲しい。	システム改善の意見を戴ければ幸いですので、プロジェクト会員と同様にPTに参加をお願い致します。
22	・地方自治体への導入普及に向け取組みをお願いしたい。	中部ブロック発注者協議会を通じる等によって、今後とも建設ICT技術への取組みを働き掛けてまいります。
23	・情報共有システム(ASP)について、もう少し分かりやすい資料の提供、及び講習会を行っていただきたい。	情報共有システム効果実現PT等において、ご意見を参考に議論を進めてまいります。
24	・情報共有システム(ASP)の利用について、利用されているシステムの機能範囲(本省が提起している機能要件の全ての機能等)の結果や、講評を示していただきたい。	中部地整においては全ての機能要件を活用するのではなく、現場からの意見を取り上げ試行しています。その結果、アンケート調査において受発注者間のやり取りが効率化したとの良好な結果を得ております。
25	中部標準化に先がけての、各種基準の整備がはつきりされていないものが多くあるので、なるべく早急に、具体的な情報が欲しい。	監督・検査基準など最新版については、中部地整HPや各種説明会でもご案内いたしますが、総合サイト「 http://www.cbr.mlit.go.jp/kensetsu-ict/ict-model.html#03 」にまとめて掲載しております。今後も基準が改定次第、情報更新して参りますのでご活用願います。